

第30期社会教育委員の会議

第5回定例会

議事録

令和4年12月8日

【1】開催日時

令和4年12月8日（木）18時30分～20時30分

【2】開催場所

教育会館3階 研修室「ぎんが」

【3】出席委員

井上委員（議長）、堀井委員（副議長）、峯岸委員、奥平委員、豊田委員、村上委員、
村内委員、佐藤委員、新海委員、山崎委員

【4】出席職員

教育委員会事務局

内田生涯学習部長、加野生涯学習・地域学校連携課長、御園生社会教育担当係長、
清野社会教育係主任

【5】傍聴人

無し

【6】次第

- 1 第4回議事録の承認
- 2 議事
 - （1）実践的連携・協働に向けた活動計画 I
- 3 その他
 - （1）次回日程について

○議長 それでは、本日の議事日程に従って進めさせていただきます。

まず、第4回議事録（案）の承認でございます。事務局より事前に送付されておりますので、もう皆さん御確認いただいております。訂正等がありましたら、申し出ていただいで確認したいと思いますのですが、いかがでしょうか。特に問題なければ御承認をお願いしたいと思います。よろしいですか。

ありがとうございました。では、この会議の終了後、新海委員と山崎委員に署名をしていただくようお願いいたします。

あわせて、今回の議事録の署名については、堀井委員と峯岸委員をお願いいたします。よろしくをお願いいたします。

なお、修正の有無にかかわらず、後日、事務局より完成版が配付されるということですので、よろしくをお願いいたします。

議事に移る前に、今後の進め方についてスケジュールの確認をしたいと思いますので、事務局、説明をお願いいたします。

○事務局 改めまして、こんばんは。今後のスケジュール、進め方も含めて説明をさせていただきます。

まず、お手元の資料2、第30期社会教育委員の会議スケジュール案を御覧いただきたいと思います。

前回の最後、議長から今後の進め方について、3月にワークショップを開催する予定で、12月、1月に関してはその準備というお話があったかと思うのですが、改めてスケジュール等々を見直した結果、ワークショップを3月に開催してしまうと、そのための準備に回数あるいは時間を取られてしまうこともあって、それよりは、この間、皆様方の4つの活動について議論してきたので、諮問にもあるように、新たな連協・協働の実践モデルについては、4つの活動を実践モデルとして検証できればよいのではないかと考えております。

そこで全体のスケジュールを4つに区切って進められればと考えております。それがこのスケジュール案の左側です。1回から4回までを持続可能な地域活動について、5回から8回までを実践的連携・協働に向けた活動計画、9回から11回までを実践的連携・協働活動の検証について、そして最後12回から14回までを検証のまとめ、このように4つに区切って進められたらよいのではないかと考えてございます。

具体的に申し上げますが、事前にも周知したところですが、資料5を御覧いただきたいと思います。この資料を基に5回、6回では主な検討事項として、より連携・協働するた

めには何が必要か、また、連携・協働の障壁になっているものは何か、そして、どんな連携・協働が考えられるか、こういったことを協議いただければと考えております。

また、7回には皆様の活動以外にも、新たな地域資源の可能性として、企業側のやり方等も参考にいただければということで、事例報告を予定しております。

そして8回目には、4つの活動をしていただくために、試行に向けた計画案を作成いただき、こちらも予定ですが、5月から6月ぐらいに学校との連携・協働活動の試行を予定しています。

9回目には、その試行についての報告と振り返りを、10回目にはワークショップの代わりにこれまでの活動の成果ということで、これまで議論していただいた4つの活動の成果報告をしていただくような会を考えております。どこまでが成果というところもありますが、場合によっては中間報告かもしれませんが、そういったこれまでのやってきたことの報告会のようなことをしてはどうかと考えてございます。ですから、9回目はその準備の回にしたいとも考えております。

そして、残りの回については、主に活動報告書について検討していきたいと考えておりますので、以上が来年度の計画も含めたスケジュール案ということで御提案しました。

実際にやりながら修正が必要であれば、その都度また皆様と一緒に確認しながら行っていきたいと考えていますので、まずは全体スケジュール案について皆様方の御意見をお聞かせいただければと存じます。よろしく願いいたします。

○議長 ありがとうございます。ただいま事務局から今後のスケジュール案について説明がありました。何か御意見や全体で確認したいことなどはありますか。

このスケジュール案は、皆さんお気づきのように何回か変わっております。以前は、例えば7回、3月ぐらいにワークショップを開催するというような話もあったわけですが、私から、ワークショップはちょっと早いのではないかという話をしたり、諮問事項にある、前回、29期では、「地域と学校でつくる連携・協働のしくみ」というテーマで、おやまちプロジェクトの話を、これは尾山台地域でやっていることですが。そして30期では、それ以外の実践的なモデルを幾つか取り上げて、何がうまくいっている秘訣で、障害、問題となるようなものはどんなことだろうかということを考えていこうとしてきたと理解しております。

そのモデルについてですが、前回までの議論の中で、委員の皆様が活動されている4つを主として取り上げて考えて、議論されてまいりました。ほかにもあるのですが、まずは

その4つについて、今日の提案ですと、5回目が今日になりますが、タイトルとしては実践的連携・協働に向けた活動計画ということで、今までも連携・協働されてきたわけですが、より連携・協働していくためにはどんなことが必要かをテーマに、事務局の提案されたスケジュールでは、今日は子ども食堂とおやじの会、次回が総合型地域スポーツクラブと船橋子どもぶんか村について、今までやってきたことをさらに深めていくためにはどうすればよいのかというようなことを検討したらどうかという御提案であります。

それに加えて、7回では、また別のものを考えてはどうかという提案と理解しました。

その連携・協働に向けて、いわば秘訣とか問題点を探るところを今年度行った上で、来年度は5月から6月ぐらいに、今ももう連携・協働の活動はされているわけですが、さらにもし行くとすれば、どんなことが考えられるのかを、事務局のイメージでは、実際にやってみてはいかがだろうかということのようであります。

それを今、皆さんと一緒に議論してきた4つのグループで、いや、もううちは十分だということがあれば、また別のものを考えていってもよいのかと思っておりますが、ともかくそこから始めてはどうかという提案と受け止めております。

5月、6月という時期がどうかということもありますが、実は当初は3月、4月はという話もありましたが、3月、4月は学校が忙しい年度の変わりですので、少し落ち着いた時期はどうかと。

また、5月、6月、2か月と言っても、回数としたらそんなにたくさんできないかもしれない、そういう短い期間での連携・協働の試行と言っても何が分かるのかということもありますが、1年、2年通じてということも難しいので、少しそれぐらいの季節、そして長さのイメージの中で何かができれば、それをまた皆さんで検討しようか、できたらいいなと思っております。

ですので、例えばどこかの活動を、何か新しいことをやっていただいたら、それをお時間の合う人が、委員の皆さんが見ていただくとか、あるいは行けなければ、僕のほうから事務局にビデオで撮ってとお願いしているんです。

そういうものを何らかの形で見ていただくというような、今まではやったことのお話を聞いてきたわけですが、今度実際の場面を見て、例えばそこで先生方や子どもたちと何か一緒にやったりすることがあれば、そのときの様子を見ていただきたいと思います。

あるいは、おやじの会で何か議論しながら考えていくということであれば、少しその様子を見せていただくとか、そうすると、どのように議論が進んでいくのか、そこでの議論

の進め方は、ほかの会議のようなものとはどう違うのかが、今まではお話はあったのですが、それを目で見たり聞いたりすることで、さらに考えていけないだろうかというような趣旨と私は理解しております。

それがどこまでうまくいくか分かりませんが、それを踏まえて成果報告会というのを秋ぐらいにされたいと考えていらっしゃるようです。秋がよいのか、ちょっと分かりませんが、それを基に、また報告書の形にして、第30期という私たちの会議の任務を終えたいというようなイメージと理解しております。

何か御意見ありますか。それがどの程度うまくいくかはまだ分からないのですが、いかがでしょうか。

○委員 1つ質問ですが、来年の3月、7回目の定例会ですが、このプロジェクトをここに持ってきた理由というか、ちょっとその辺をお聞きしたいなど。

○事務局 まだプロジェクトの代表の方にはアポイントを取っているわけではありません。ただ、これまで、先ほど来お話ししている4つの活動以外にも、これは民間で活動されている方ですので、実際にその地域の住民の方たちとの活動ではないという中で、では、企業側は一体どのように学校と連携しているのだろうか、ちょっと趣向が違うようなところを参考までに、事例報告等々を通じながら確認し合うということもよいのではないかと考えております。

そして、委員の小学校とも連携・協働されているということですので、全く関係がないわけではないのですが、身近にそういう例もありますので、もし、皆さんがそういう話も聞いてみたいということであれば、これからアポイントを取っていくという形で考えております。

○委員 こちらのプロジェクトは企業ですか。

○事務局 はい。

○事務局 お店も運営されている方ですが、エシカルなどの活動を団体として、区内で活動もされており、利潤を目的としないいろいろな活動をたくさんやられている方なんです。ただ、お名前をお出ししたきっかけになったのは、やはり小学校でも和綿を育てるということをやっているところから、いかがかなという御提案でございます。

○委員 では、少し付け足してというか、私もここに来て初めて、ここに挙がっているのを見たのですが、確かに今年からやっているんです。学校にある畑で綿を栽培して、その綿を使って子どもたちの学習を総合的な学習で、今年から初めて組んでみたのです。

そして、自由が丘にお店を持つ人で、かつて、もっと随分前にお子さんが小学校に通っていたという方なのですが、その方が綿を畑に植えるところからと、栽培するところから全部、学校に来て、子どもに直接指導するゲストティーチャーのような感じですが、そもそもはその和綿の価値というか、在来種を広げようというような活動をしている方で、綿でも何でも別にその手のものは何でもよかったです。

学校としては理科の学習と、それから総合的な学習を横断的に捉えたカリキュラムを組みたかったので、ちょうどよい具合で、綿の種とは知らせないで植えて、綿ができて、それが明らかになって、できたら何かつくりたくなってとSTEM教育につながるようにと思ったのですが、まだ終わっていませんが、想像以上に面白かったと。そして3年生が年度末には機織りまで、どこまでできるのか分かりませんが、やり始めたばかりなんです。

だから、まだ、やったばかりで、かつて、地元の方で、時々いらしていたみたいですが、単発的だったので、止まっていたんですね。それを長期間取り組む題材にして、総合的な学習でやってみているというような方で、学校に全面的に協力してくれている方です。

○委員 分かりました、ありがとうございます。

○事務局 少し補足をさせていただいて、区内のいろいろなところで様々な団体と、その和綿を育てるということを、農地との協力とかで事例を重ねていらっしゃる方で、学校でも、和綿に限らないのですが、綿を使った、指を使って紡いで何かちょっと小物をつくったりとか、そういうことを体験授業とかでもなさっている方ではいらっしゃいます。

○委員 分かりました。

○議長 僕はこの活動を知っているわけではなくて、提案があったので、その提案のまま、今皆さんにお見せしたということです。

大変興味深い活動をされているだろうということは想像はつくのですが、これをここに入れて、その1回だけで、今回の諮問の話に結びつけてできるかどうかは、正直言ってよく分かりません。ですから、ここには挙がっておりますが、これをこの30期でやるのがふさわしいかどうかは、皆さんと考えながら行かなければいけないかなと。もしかしたら30期ではないときにやったほうがいいのかないかなという気はいたします。事務局からの提案です。

○委員 まあ、興味は非常にありますね。

○議長 多分、事務局からの提案は、5回、6回で連携の実践的なモデルのポイントを発見して、その発見した目でこれを見たら何かが分かるのではないかなというような狙いだと

理解しました。しかし、それが本当に短期間にできるかどうかは、僕はそんなに簡単ではないと思っています。総合的な学習の時間等でやっているということは分かりますが、それを見るわけではないので、あまり安易に新しい事例を入れていくことがふさわしいかどうかとも考えなければいけない。

しかし、その一方で、今回の4つ今まで議論してきたことを新たにまた実践するということへのハードルがあるとすれば、どうしても新たな実践ということに、皆さん方がポイントを置きたいということであると、今までやってきたものに何を新たにということが難しければ、無理して新たにということをする以上に、今まで皆さんと一緒に考えてきた、そういう視点で別の活動を見ていくという形の方法もあるのかなということから提案されたのかなと理解しています。いかがですか。

○副議長 面白いとは思いますが、確かに議長のおっしゃるとおりで、ちょっと唐突感がありますね。なので、これは実践的連携・協働に向けた活動計画ⅡではなくてⅢにするつもりだったのですか。

○事務局 失礼しました、ここはⅢですね。

○副議長 だから、この並びにあるとちょっとおかしいですよ。だから、これは本当はあくまで参考までにという感じになるでしょうかね。だから、この位置にあると、確かにちょっと違和感、唐突感が否めないのも、もしやるとしても、もうちょっと後かもしれないですね。ただ、興味深いことは確かですよ。こういう社会資源として、なぜ企業が学校に興味を持ったのかとか。本当にこの人の個人的な興味関心なんですかね。なかなか企業だと、やはり利潤追求ではないと先ほどおっしゃっていましたが……。

○事務局 世田谷エシカル協会というところで活動をしている方で、本当に不思議に思うぐらい、利潤を目的としない社会貢献活動を、エシカルとかSDGsをテーマに多面的になさっていて、NPOではないのですが、同じような志を持った団体の方たちとも一緒に活動をしたり、世田谷区の中で大分幅広くいろいろと活動をされています。

私立学校でも和綿を育てるということを、地元の小学校とお近くの学校で、この方がお店をやっている商店街も同じ地域の中でやっていらっしゃると。教育の中にエシカルの視点を入れるということを一生懸命やられているという面があります。

○副議長 すごく興味深くはありますけれどもね。

○議長 ジョン・デューイの実践をほうふつさせるようなものなんです。ただ……。

○副議長 ただ、ちょっと唐突感が……。

○議長 多分、世田谷にはほかにもいろいろなものがあると思うのですね。そうすると、もしかしたらもう少し時間をかけて、また3つぐらい別のものを見るということもあるのかなとは思いますが、ただ、この5回、6回の進み具合によるのかなと思ったりします。でも、試行錯誤のところを見るということも面白いんですけどね、完成されているよりも、そのプロセスを見るということもあるのかなと思うのですが、多分、何か別のことでされているところもあれば、今年できるかどうかですが、慌ててやらなくてもいいのかなと思うこともあります。

○副議長 でも、気になるのは、やはり学校と企業とが結びつくきっかけなり、そういうものは確かにすごく興味深くはありますよね、「何でそこで」と。

やはりなかなか学校だと、「えっ、どんな企業なんだろう」とか「利潤追求に巻き込まれたらちょっと大変だな」とか、やはり構えてしまいますものね。

○委員 元保護者だから。

○副議長 ああ、なるほど。

○委員 そして、随分前には、高学年に対して1日くらいのゲストティーチャーで呼んでいたみたいです。

○副議長 だから、信頼性というところで結びついたら。そういう意味では興味深いなと思うんですけどもね。

○委員 5回、6回のメインストリームがはっきりしていれば、僕はあくまでも参考として、こういうものが1つあるのだなということで見えればいいかなと思っていましたが…。

○事務局 どうでしょうか、先ほど議長のお話もあったように、5回、6回の進み具合によって、割とタイトに組んでいますので、いや、幾ら参考でもこの1回を入れるということとはもったいないということであれば、必ずということではないので、あくまでも提案ということで、今後の皆様方の活動の参考になればということでまた逆に、こんな活動をしている団体があるということで、皆様から御提案があってもよいかと思っております。

○議長 そういうことではいかがでしょうか。僕もこれがよくないとか、そういうことでは全くないんですね。むしろ1回でないほうがいいのかと思ったりもしているんです。ただ、今まで議論していないものですから、今までの議論で深められたところまでをもう一度確認して、先ほど申し上げたように、そこで視点ができていけば、ほかのを見ても分かるでしょうし、そこがある程度煮詰まっていかないと、また新しいのが出てきてしまった

ということになると、ちょっと早いかなという気もいたしますので……。

○事務局 今日、あまりお時間、このスケジュールだけを話し合っているというわけにもいきませんので、それぞれが全体のスケジュールを、お時間があるときにもう1回見直していただきながら、5回、6回と進む中で、本当にこういうものが参考として入ったほうがよいのか、また入れるのであれば、何回ぐらいのところに入れたほうがよいのかというようなところを検討いただければと思っております。

それから、ついでながら資料の確認をしますが、お手元の資料3は「活動を通して大事なキーワードの背後にあるものとは何か」ということで、前回ホワイトボードに書いたもの、あるいは議事録から抜粋したものがこちらのA3判の資料3になります。

資料4「持続可能な地域活動とは」です。先ほども御提案しましたが、全体スケジュールの中で1回から4回は「持続可能な地域活動とは」ということでやってきたので、今後は「どうやったら連携・協働できるか」と進む中で、一旦はまとめという形で、皆様方の御発言から「持続可能な地域活動に向けた方策(案)」というところで、下の「組織」とか「運営方法・手法」等々は議論の中で、こういうことが背景にあって、持続可能な地域活動に向けた方策(案)、主に3つ、1つは「だれでも参加できる敷居の低いふわっとした組織」、2つ目として「活動参加へのきっかけづくり」、3つ目として「地域課題解決」ということで、それぞれ必要なものを3点加えているという形です。ぜひ確認いただければと思います。

そして資料5が先ほども言ったように、今日の本題、議題の中ですが、実際に実践的連携・協働に向けた活動計画Iとして、主に3つ掲げておりますが、〔検討事項シート〕ということで、本日は子ども食堂、それからおやじの会について、これ以外にも、もしこういう設問はどうなのということであれば出していただきながら、1つ目は、より連携・協働するために何が必要なのか、2つ目として、連携・協働における障壁になっているものは一体何か、どのようにやったら改善できるのかとか、3つ目には、今後どんな連携・協働が考えられるのか、どんな可能性があるのかといったことを中心に、今日は2つの活動、次回は残りのぶんか村と総合型地域スポーツクラブができればよいのではないかと考えてございます。

○議長 よろしいでしょうか、今日のメインにやることですね。

では、少し時間をスケジュールの検討に使ってしまいましたので、早速本題に入りたいと思います。

時間は大体半分半分で……。

○事務局 そうですね、1つの団体で正味40分ぐらいと考えております。

○議長 タイムキーパーをお願いします。

では、まず子ども食堂と学校が連携・協働するというところについてお話しいただきながらみんなで考えるのですが、既に議論してきたことですが、多分これは今日のスケジュールで言うと、5月から6月にかけて、さらに何かをするというイメージを持って考えてほしいということだろうと思うのですね。何かありますか。それを頭に置きながら、より連携・協働するためにと。こういうことがあるからうまくやってきたということも今までお話しいただきましたが、この辺がちょっと難しいのだということもあるかもしれないし、それを踏まえて、さらに何かを5月、6月に試行すると。

無理やり何かやれと感じてしまうと、また負担になるかもしれませんが、モデルを抽出し、実践的な検証という言葉の中には、検証するために何かをということだろうと思うのですね。

でも、これは別にどこかもう一つやれということでは必ずしもなくて、どのように進んでいるのかを皆さんで、機会がうまく合えば見ていただくということも、その検証ということなのかなとは思いますが、事務局としてはぜひ5月か6月にということのようですが、いかがでしょうか。

○委員 今の段階の連携としては、直接校長先生にあったことを御報告に行ったのが、始めるときに1回と、秋に1回ということがあります。

そして、あまり直接連携を取っていないのは、支援員さんが今、子ども食堂のスタッフとして活動してくださっているんで、その方を介してということが少しあるので、情報のやり取りが少しできている感じです。

○議長 ちょっと分からないのですが、今の校長先生とお話したということは、設備的なものとか、来てくれている子どもの話ですかね。

○委員 そうですね、子どもさんの話とか、今、このように運営していますということで、参加人数が随分増えてきたということもありますし、ちょっと気になるお子さんもいたりしたときに、こういう感じの様子が見られますがということでの御相談に上がるというような形での御報告です。なので、学校との窓口は校長先生だというお話になっています。

この題をいただいたときに、一般的な子ども食堂かと思って考えてきてしまったので、本当はもう少し小まめに校長先生と連絡を取り合いながら、折に触れて活動の様子が変わ

ってきて、その学校ではないお子さんとか、未就学児の方、中学生も含めて来ているケースもあるので、どのように学校と連携していったらよいのかというところは1つあります。

それと同時に、もし小学校と連携していくのであれば、ちょっと思いつかないのですが、もう1つやっている中学校であるならば、これは理想なのですが、子ども食堂という形は難しい。御飯を食べさせるということはすごく難しいのですが、カフェ程度に、お茶とお菓子ぐらいのスペースを設けて、月に1回でもちょっと設けて、と。

それを運営するのは地域の住民だったりボランティアだったり、保護者ではないほうがよいかとは思いますが、ちょっとそういうスペースを設けて、子どもが気軽に立ち寄れるような、よく居場所、学校にカフェをつくろうという話がいつときちょっとあったような、ああいうものをやってみたいなど、ちょっとそんなふうに、食堂ということの連携だと、少しどうですかね。

○委員 では、ちょっと1ついいでしょうか。私は実は他区の一般社団法人で子ども食堂をやっている、一度委員のところの子ども食堂も見せていただいたのですが、子ども食堂が何を目的にしているのかというところで、学校とつながりが必要か必要ではないかという言い方はちょっと違うかもしれませんが、私のやっているところは、単純に地域に独りで御飯を食べていたり、満足に御飯を食べられない子はもしかしたらいるかもしれないけれども、その子が自分で「自分は独りで御飯を食べています」とかという意思表示をするわけではないので、どんなお子さんが来ても、手づくりの食事を楽しく食べてもらうということが目的でやっているのですね。

そうすると学校との連携は、うちの食堂には必要がなくて、たまたま委員のところは、隣に小学校があってというところで、学校との連携という話になっていると思うのですが、その目的の違いと言うのですか。学校との連携が必要な場合は、そっちに話をしていけばよいと思うのですが、こんな参考にもならない意見で、すみません。

○委員 まとめていただいて、ありがとうございました。なので、そうですね、学校でもつなげたい御家庭はあるけれども、個人情報とかいろいろなことがあるので、直接それは発せられないけれども、今は折に触れて目に触れるような形でチラシを見せてくださったりとかというようなことでの連携で、そして、比較的そこに、それを見て来てくださっているもので、そういう意味では直接ではない、間接的な連携としては、できている感じは何となくしています。

○副議長 先ほど何か課題のある子がすごく気になるという話があったではないですか。

だから、それについて、今、個人情報とは言っても、やはり対応する上で、学校と何かしらつながりたいとか、それはそれで連携だと思うんですね。

○委員 はい。

○副議長 そういう思いはあたりするのですか。

○委員 あって、校長先生はそこに対してはとても御理解があって、そこでいろいろお話をさせていただいています。とても協力的に思っています。

○副議長 だから、そういう活動報告を一応上げてはいるわけですよね。

○委員 はい。そして、今来ている支援員さんを通して、折に触れてちょっと気軽に報告をお願いしているところもあります。

○副議長 その支援員さんというのは、包括支援員さんですか。

○委員 包括支援員さんです。

○副議長 だから、それを増やしていくというだけでも、より連携を深めるとか……。

○委員 そうです、子ども食堂には社会福祉協議会とのつながりもあって、そういう気になるお子さんがいる場合は、ぜひつなげてくださいというような連携もありますので、それが学校なのか社協なのかと……。

○委員 そうですね、活動自体が社協さんの協力を得ているとか、そこでの信用していただいているというところもあるのですかね。

そして、食堂って子どもが御飯を食べるだけではなく、居場所としての要素もあって、その部分を子どももすごく楽しみにしていて、お勉強を持ってきてくれば大学生が見てくれるよということもしているのですが、実際に大学生がなかなかそこまで、力量的にはちょっと難しいなと今思っているところもあって、そういう意味での、子ども食堂プラスアルファの部分はどう考えていくかと。

片やスタッフのほうでは、もう御飯を作るということで集まってきているので、その部分となると、またどうなのかなということが、今ちょっと思っているところで、ちょっとぶんか村さんのところに御相談したりということもあるのですが……。

○委員 今のそういう環境、状況の中だと、子どもというのは本音が出ますよね。

○委員 はい。

○委員 学校では見せられない、見られない本音が出る。もちろん一緒にいると親もそうだと思うのですが、その本音が、いい、悪いは別にして、学校への称賛もあれば、プラスもあれば、マイナスもあるという本音が出てくるところ、それをどう捉えて、先ほどの個

人情報との兼ね合いで難しい面もあるのでしょうかけれども、それをどう捉えて、どう学校に還元するのかという、その辺の問題で、ちょっと赤裸々な話になりますが、そんなことを考えていくと、つながりということが必ず出てくるわけですね。

それが、恐らく子ども食堂に限らず、いろいろな地域のところには、子どもたち、親の本音、それをどう捉えて、どう活用と言うのかな、していくのか、あるいはフィードバックしていくのかということが、何か1つの大きな課題かなと思いますよね。

○副議長 さっき言われた一、二回は、だから、今はたまたま包括支援員さんがメンバーにいるから、それを通じてしょっちゅう連携は取れているけれども、本来であれば、もしかしたらオフィシャルにと。一、二回しか接点はないと言いましたが……。

○委員 そうですね。つい校長先生はお忙しいかなと思って気を遣ってしまうところと、それほど大きな何かのこともないのでという感じだったので、まあ、半年ぐらいたちましたということで御報告兼御挨拶、それも包括支援員さんが時間をセッティングして調整してくださったので、そういう意味ではすごくありがたくなんですね。

○副議長 ああ、なるほど。

○委員 やはりこちらとしては、先生はお忙しいだろうな、貴重な時間……。

○副議長 そういう意味では、障壁はそれですね。

○委員 まあ、そうですね。

○副議長 先生はお忙しいだろうなと。

○委員 そうですね、なので、あとは先生が見に来てくださるというのも大歓迎なんですけど、なかなかそれも水曜日という日程もあるんですかね、なかなかそのところのコミュニケーションが、まだちょっと私も努力不足かとは思っております。

あともう一点は、子どもたちにとって、先生が来ることがよいのかとか、それもあると思っているので、隣だけれども、違う空間とか、なかなか、やはりデリケートな子たちも来ているので……。

○副議長 そうでしょうね。

○委員 比較的に会員登録制は、前にも申しましたが、そういうことで、お母様が登録の手続きを取ってくださるということ言えば、子どもに対して、少し前向きな親御さんということはあるので、委員のところの活動とは少し違うかもしれません、親が登録するというフィルターが1つあるので。

そして、先生がおっしゃるには、そのフィルターがあるから行かない子もいるという

ことは、ちょっとちらっとおっしゃっていました。「親が登録しないと」というところであると、そこが逆に言うとフィルターかなとおっしゃっていたこともありました。

なので、もし連携ができるのだとすれば、先生との、どういう連携を取れるのか分からないのですが、親の申込みなしでも情報をいただきながら受けるということができるのであれば、まあ、私たちにそこまでのキャパがあるかどうかはあるのですが……。

○委員 そうですね、学校で「子ども食堂があるから行っていいよ」とアナウンスすると、どれだけの子どもが来るか、まあ、来過ぎるといえるか、やはり受け入れるキャパが難しくなるので、学校にどのように関わっていただくかも、多分課題の1つではないかと。

○委員 願わくばピンポイントで「この子は」というところなのですが、それがかなうのかどうかというところもあるかとは思いますが、その辺の個人情報の障壁もそうですし、ぶんか村さんもそうだと思いますが、一旦出していただいても、こちらがそこをしっかりと受け止められるかも、連携の一つの要素かなとは思いますが。

○委員 ただ、食支援をする場合はアレルギーのことがあるので、やはり必ず親と面接しながらやっています。

○委員 そうですね、うちも一旦、保険に入ったりする際のことで、御連絡先は必ず頂いています。

○委員 よろしいですか。子ども食堂は今年で10周年で、一番のスタートは、とにかく貧困。

または、少したって孤食ですね。核家族化になって子どもたちが独りで食べている。貧困ではないのだけれども孤食になっているから、そういうところで子どもたち同士でと。

それがだんだん育ってきて、その間に3.11のような自然災害等で、余計に子ども食堂が全国区に広がってきたという成り立ちがあって、だけど今、もう10年たつと、子ども同士の情報の場になった。

そうすると見方が、昔は貧困、孤食が、今は少し違って来たのではないかと同時に、今も貧困があるということも聞いておりますので、そのときに子ども食堂って、その捉え方だと、その最初のイメージが強いのですが、今、見方を変えたとしても、やはり貧困の子どもたちは今現在もかなりいるという情報が出ていますので、その捉え方と、皆さん学校が、子ども食堂があるから、みんな、何となく、楽しい場所だから行きなさいという、その転換期なのかなということ。

それと同時に、子ども食堂と違うのですが、私、青少年交流センターの運営委員もやっ

ているのですが、その中で所長に言われたことは、小学生、中学生が来ているのですが、ちょっと事件が起きてしまったと。私が担当する学校だったものですから、所長から私に直接連絡が入って、ちょっとトラブルになって、学校に報告するべきかどうかという形が来たのです。やはりそこには個人情報等がありますから。

そうすると、子ども食堂も、やはり健全育成だとか子どもの居場所を目指すと、学校との連携としては、どうしても、その一つの子どもに対して、対子どもに対して、何かあった場合、学校に連絡して、どういう対応をしたらいいかという、また、子ども食堂の今までの運営と違う部分が出てくるとは思うんですね。

ちょっとまとまりがなかったのですが、だから、スタートしたときの子ども食堂と、今10年たった子ども食堂、それは今現在、情報発信で、子ども食堂の中に高齢者も入ってくる、お年寄りもそこに取り込もうというような動きがある。ちょっと広がってしまうのですが、その中で、では、子ども食堂と学校の連携となると、すごく難しい。

「楽しい場所だよ、行きなさい」ということと、子ども食堂に行くと言っても、やはりという感覚の見方の保護者もいると思いますからね。そこは本当に学校との取り合いは、この中で話していても、討議するのですが、かなりシビアなところも出てくるのではないかとはいまして、ちょっと発言したのですが……。

○議長 ありがとうございます。ちょっと確認したいのですが、諮問事項に「地域資源を活用した新たな連携・協働の実践的モデルづくりと検証」とありますが、これは連携・協働するのは誰と誰をイメージされているのですか。

○事務局 学校と連携・協働ということで考えていますので、この間4つの活動を検証してきたわけですから、その4つの活動と学校がより連携・協働するにはどうしたらよいか、どんな可能性があるのか。

そして、繰り返しになってしまいますが、どんな障壁になっているものがあるのか、それはどのようにしたら改善できるのかといったことを、短い期間の中で試行みたいなのができればよいのかなとは考えています。

○議長 ありがとうございます。というようなことらしいのですが、それに対して、ちょっと僕が言うとまずいかもしれませんが、感じていることを申し上げますと、子ども食堂は学校と連携しないほうがよいのではないですか。

子ども食堂がミニ学校化してしまうので、学校がいろいろな意味でつらい子どもたちは、子ども食堂に行くとはっとするというようなことがあるとするなら、学校と連携し過ぎて、

そこで話していることなどが全部筒抜けになると。でも、子どもたちがそう思ったり、学校での子どもの位置づけみたいな関係性が、子ども食堂に行ってもそのまま引き続くようなところであれば、多分楽しくないような気がするんです。

ですので、今、言われたように、最初にイメージ、御飯を作って一緒に食べたい、あるいはそういうことをしたいのだというような気持ちで集まっていた人は、むしろその気持ちを大事にさせていただいて、もちろん悪いことをしたら駄目よというような、そういうこととか、場合によっては、「これ、分からない」と言って勉強を見てあげることなども、もしかしたらよいのかもしれませんが、それが学校のようになってしまうと、何か子ども食堂のよさがなくなってしまうような気がするので、そのようなことはないですかね。

そして、もしあるのだとすれば、それを踏まえた上での連携の仕方を考えないと、逐一校長先生にお話をしなければならぬ。全部するのが子ども食堂的なのかどうかは、ちょっと気にはなるのですが……。

○委員 勉強の面で言うと、学校で落ち着きがないお子さんとか、行かれていないお子さんとか、あと、問題と言われているお子さんが来ているのですが、意外と宿題のときは、座って落ち着いていたりという様子を先生にお話ししたりすることで、「ああ、そういう面もあるのね」というような子ども理解のきっかけにはなっているかなと。

逆に「あっ、その子、学校ではそういうふうだったんですか、何か全然違いますね」というような、何かプラス面の、相互の子どものいろいろな、その場その場で違うことを理解するには、今の校長先生とは、すごくできるなという、これは何と表現したらよいのか分からないのですが、そのように話ができるので。

そして、そんなに多い人数が入れる場所ではないので、学校の関係性を、この今の活動に関して言えば、そのまま持ってくるということは、男女もちょうどばらけた感じで集まっているので、あまりないかなということはあるかな。

なので、マイナスの情報交換よりはプラスの交換のほうで、互いにそっちの面で関係性をつくっているという感じはありますか。

○議長 いかがですか。

○委員 いや、そんなことはないと思います。先生がおっしゃるように、やはり学校化してはいけないかなと思います。

○委員 それはそうだと思います。

○委員 まあ、情報交換も子ども理解も大事とは思いますが、行く子どもにとっては、

夜の学校みたいな感じは、ちょっとどうなのかなという気は。子ども食堂は、おうちの代わりですね。

○委員 そうですね、おうちの代わりなので、本当に来て、食堂の端っこで勉強している子もいれば、カードで遊んでいる子もいるしというような、だから来ると「何だ、ここは」みたいな感じなのですが……。

○委員 家族というか、家庭の団らんみたいなものを、その子ども食堂の中で求める子たちが……。

○委員 やっている感じですかね。

○委員 やはり先生が行くと、違う空気になるので、そこはもう絶対に間違いないと思います。

○事務局 先ほどどなたかとも言われたように、子ども食堂はたくさんあると思うのですね。世田谷にも五、六十ありますよね。その中で、やはり規模の大きいところと小さいところとか、案内しているところと案内していないところとかといろいろあると思うのです。

ですから、目的によってそれぞれ変わってくるのかなという気もしていますし、それから間接的な連携というお話もあって、学校の先生たちが食堂に来るとかということではなくて、常に子どもたちの様子を、子ども食堂だけではなくて、いろいろなところから収集したいという思いはあるのかなという気はしているんです。

そういう面では、こういう間接的に、いつでもやり取りができるようなつながりを持っていくということも一つは必要なところではあるのかなということは、ちょっと今感じました。

○委員 確かに今、議長が言われた、連携しないほうがよいのではないかというのは、非常に説得力がある。ただ、それを言ってしまうと、もうこの話が終わってしまうので、連携と協働ですね。協働と連携は違いますよね。だから、連携しなくてもいい、しないほうがよいかもしれないが、協働はしてもいいかなと私は思うんですね。

なぜかという、学校ができないこと、学校ができない隙間を子ども食堂が地域では埋めていると考えれば、学校はもう夜は、5時以降、6時以降は面倒を見れないわけだから、その隙間を埋めていると考えれば、協働の範疇に入っていくのではないかと、ちょっと感じました。

○議長 いや、僕は教育学の中でも学校に対して、教育行政に対して近いところでしているので、あえて言う議論なのですが、やはり教育の中の立場の人には、世の中全部が学校

的な価値観の中で行くと、「もう学校のいい子はほかでもいい子」みたいになってしまうのはよくないというのがありますよね。そういう意味では、連携も協働もできる場所はするのだけれども、し過ぎてしまうと、みんな学校になってしまって、やはり学校ではないからよいところもあるんだということを大事にしていけないといけないかなという視点を少しシャープにするための発言と御理解ください。

○委員 学校の先生が子ども食堂にお見えになったら、ちょっと興ざめするという、それはそうなのですが、ただ、やはり学校の先生方はいろいろな情報を持っていらっしゃるの、子どもたちに「あそこに行ったらいいよ」とつなげるということは大切なことなのではないかと思うのです。

それは管理職の先生たちではなくて、担任の先生とか、そういう先生たちが、みんなそういう存在を知っていて、「あそこ、木曜日の夜になったら何かそんなことがあるから、行ってみたらどう？」とか、「何々ちゃん、一緒に行ってみたらどう？」とか、何かそんなふうに言ってくれたらとても助かるなど、学校もとても好意的に、「先生に言われたんだから、行ってみよう」とか、多分子どもたちはそんなふうにも思ったりしてくれるのではないかと、そういう意味での学校との連携ということはあるなと考えます。

○委員 私も今ちょっと同じことを考えていて、うちはフリースクールをやっているの、そもそも放課後に子どもたちが遊びに来たりしてくれているのですが、学校であったことを逐一報告してくれて、別の学校なので気になさらないでください、先生の悪口とか、同じクラスの子たちで、「ああ、こうだったよね、ああだったよね」と言って発散して帰ってくれていると。

私たちはその悪口を言っている先生には直接お会いしたこともないですし、どんな先生かも分からないので、「あの先生、ちょっと会ってみたいよね」というような話はスタッフ間なのですが、直接私たちが学校に行って「この子たちが」という話は、今までしたことはありませんが、さっきおっしゃったように、学校が子ども食堂の存在を知っていて、そこにつなげてあげたほうがいい、あそこに行ったら楽しいことがあるのではないかと学校側が思ってくだされれば、連携ができてくるなと思いました、同じような意見ですが。

○議長 今のようなお話を踏まえた上で、うまくつながることは必要だけれども、あまりつながり過ぎててもまた問題があるみたいなことが出てきたのですが、それを踏まえて、5月、6月に、さらに何か試行というようなことがもしできるとすれば、どんなことが考えられますか。

○委員 どのようなことがありますかね、お教えてください、ちょっと考えたことが……。

○委員 学習支援もやりたいのでしょうか。

○委員 学習も、この間、学習をと考えたのは、学年は今、何年生ですかね、どうも九九を習ってきた子が、ホワイトボードがあるので、そこに九九を書いていたのですね。そして「2の段は習った」と言うので、「では、7掛ける2は」と言ったら、「そこはまだやっていない」というような話の中で、もうちょっと高学年の子が、「これ、逆さまにすればいいじゃん」みたいな話になったと。

何かそのような展開とかで言えた楽しさとかがあると、やはり子どもは学校で学んできたことを、どこかで自分が今度先生になってやってみたいとか、知的な興味はすごくあるので、学習支援という言い方はあれですが、学校に行っている限りは、学びということは子どもにとってはすごくうれしいことなんだろうなと思って、そういう場をつくりたいなと、先ほど申しましたが、思っているのですが、御飯のところがメインでありながら、それはというと難しいし、どんなものかな、いかがなものかなと。

そしてまた、ミニ学校にはしたくないというところの、だけど、やはり楽しさということ体を感で知ってもらえたらな、そんなことができたらなということがあります。

なので、気のある子はお手伝いをしながら、大きじ、小さじで何杯とかいうことをやってみたり、そんなことからしているのですが、今はもう子どもは大きくなってしまって、学年が今どんな勉強をしているのかもちょっと分からないのと、指導要領が変わってしまったので、何ができるのかとかはあるのですが、まあ、そんなこんなで、お知恵を拝借したいと。

○議長 今決めなくてもいいんですよ。

○事務局 今決めなくてもいいです。

○議長 子ども食堂で少し学習支援に展開すると、そういう可能性もあるかもしれないですし、先ほどお話しいただいた、御飯ではないけれどもカフェという展開もあるかもしれないし……。

○委員 ただ、それは小学校だと難しいかなとは思っているのですが、中学校というようなイメージはあるのですが……。

○議長 小学校でなくても中学校でも、今決めなくてもいいので、これも何かやってくださいとか、やりなさいとかいう話ではないので、いまされていることで、御自身がしようかなということが、たまたま来年に何か展開できるようなことがあれば、それを通じて子

ども食堂のよさとか、さっき少し言いましたが、より子ども食堂らしい学校との連携・協働の在り方みたいなものが何か出ればなど。

これはほかの団体だったら、また連携・協働は違うと思うので、がっちり連携・協働することがよい場合もあるでしょうし、よくない場合もあるかもしれないということで、あまり連携・協働ありきで話をしてしまうとどうかなと思ったので申し上げました。

○委員 参考までに、今までに、子どもたちも親も本音が言える、好きなことが言えるところだというのだけれども、登録制を取っているということで、会員登録制ですよ。

話し言葉ではなくて、例えば文章とかで「子ども食堂に参加して」みたいな形で問うたことはあるのですか。作文でも、アンケートでもいいのですが、何かそういう決まった形のようなことで問うたことは……。

○委員 子どもにですか、親に？

○委員 子どもでも、親でも。

○委員 参加してみたいなことではないのですが、今、大学生が動画撮影をしたいということで、それに際して「インタビューをしてもいいですか」とか「顔出しはどうですか」というアンケートを取ったときに、結構皆さん「あらかじめ分かっていたらインタビューには答えます」という方が大半だったので、それで答えになっていますかね。

○委員 形としては、そういうインタビューの回答を一応御存じだということですね。

○委員 はい。

○委員 決まったアンケートとか、書いたものを、子どもたちに作文とか、そういうものはないですか。

○委員 そういうものをしてもらったことはなくて、ホワイトボードに「おいしいね、楽しいね」とか書いてあることはあったとしても、それを残すような形でということはちょっとないです。

○委員 あまり格式張ってても、また本音が出てこなくなるのだと思うけれども、そんなものがあるのかなと思って、あったら、それをまとめて、そういうものがあれば参考になるかなと思ったまでです。ありがとうございます。

○副議長 先ほどおっしゃったような連携は考えられますよね。ちなみにちょっと、前にも聞いたかもしれないですが、今いる子どもたち、結構この資料を見ると、ほら、割と子どもが増えてきたとおっしゃったではないですか。どうやって募集しているのですか。

○委員 募集はしていないのですが、このところ、本当にこの秋から……。

○副議長 どこかにチラシを置いてとか……。

○委員 ええ、置いていたり、ホームページだったり、あとフードドライブのところの方とかが見てなんですかね。

○副議長 だとすれば、学校と地域の子ども食堂との連携で言うと、さっき、一体となって子どもを育てるという意味では同じ目的があるわけなので、ちょっと学校にチラシを持って行って、ちょっと気になる子ですか、家庭内での、それこそ孤食とか、経済的にちょっと大変な子がいると、そういう子に「ちょっと渡してもらえますか」でも、それでも多分連携だと思うんですよ、チラシを学校に、気になる子がいたら……。

○委員 置いてはもらっているのですが、個別に渡すのはどうも難しいんですよ。

○副議長 なるほど、やはり全体でと。

○委員 逆に難しいですよ。

○委員 ええ。なので、一斉か、配らないかですよ。

○委員 何でその子に配っているのと。

○委員 そういうことになってしまうので、置きチラシ。

○副議長 そこも大きなあれですね。

○委員 でも、給食のテーマで、ポスターみたいなものが毎月ですか、半期ごとですか、貼られることがあって、子ども食堂のテーマのときがあって、「このタイミングでチラシをつくったらどうですか」と言われたことはありました。この間、ぷらっと学校へ行ったら、子ども食堂というテーマで、出しているのは給食のところでしたね。子どもたちも、そういうのがあるのかなということちょっとずつ目にする機会は増えてきているのかなと思います。

ただ、子どもが自分で率先して独りでそこに来るといったことはないですよ。まずないですよ。特に知らない人の中で御飯を食べるのは、もう、とてもハードルが高いので。

○委員 お友達を連れてくるよね。

○委員 そうですね、なので、そんなことで、そして、その友達とはとても気が合って、二人とも「いいね」と言うと次も来るけれども、どっちかが「うん？」となると、もう次は来ないみたいな、そんな感じですね。

○議長 ありがとうございます。

○委員 まとまらなくてすみません。

○議長 いえ、いえ、時間の関係があるので、大変申し訳ないですが、ここで一旦区切り

をつけさせていただきたいと思います。今日のことで5月、6月の何かということにはなりませんので、また少し考えていただいて、できることがあれば実践につなげていっていただきたいなと思っております。

それでは、次のおやじの会についてですが、いかがでしょうか。

○委員 さっきの話ですが、これは連携するのは学校なんですね。

○議長 お題としては、そうみたいですね。

○委員 組織の中でいかに連携していくかとか、そういう話ではないのですね。僕は後者だと思ったのですが、学校との連携ということと言うと、おやじの会自体も、学校のイベントだったり、運動会だったり、学校のイベントがあるときに、見回りをしたりとか、これは前にも言ったと思うのですが、いろいろな手伝いをしていて、子どもたちは先生たちに頼むみたいな、協働でイベントを手伝いますよみたいなことをやっているの、そういうことをどんどんやったら学校は喜ぶよねということも含めてやっています。

その反面ですが、PTAのバレーボールとかがあるではないですか。それと同じですが、おやじのフットサルチームとか、ソフトボールチームとか、学校の施設を、基本は、校長先生は、教育委員会からは、けやきネットに出せと言われると言っていますが、けやきに出す前に、学校の団体に先に貸し出すということをしてきているので、体育館だったり校庭だったり、PTAの団体もそうですが、あと、子どもたちのサッカーチームだったり野球チームとかも、学校内の子どもたちを集めてやっているチームがあるので、学校はそういうチームに優先的に場所を提供してもらっているということがあると。

そして、おやじの会のメンバーには「体育館をただで借りられるのは何でか分かっているだろうな、学校が協力してくれているからだぞ、けやきで取ろうと思ったらどれだけ大変か知っているか」と、半分脅しのような、「だから学校に協力しよう」と。

だから、学校のイベントに協力するのもそうだし、7月にフェスタという子どもたちの夏の祭りイベントがあって、それでおやじの会としてブースを出すとか、学校のイベントの1つのブースを手伝うだったり、カレーの炊き出しをやったりとか、まあ、このコロナで食べ物は駄目になっていますが、以前まではそういう学校のイベントに協力するというようなことを、お互いにウィン・ウィンになるようにというようなことを意識してやっていますね。

あと、学校は、そもそも教育委員会がおやじの会をバックアップしてくれているのも、そういうことがあると思いますが、学校とのコミュニケーションがなくなってしまうと、

最近はあまり聞かないですが、昔は、モンスターペアレントみたいな学校に文句を言う親が結構いたり、そうすると、学校もその運営上、いろいろ手間もかかるし、いろいろ面倒くさいということもあるのだと思うのです。

ふだんからそういう親とのコミュニケーションの場があれば、そこで、さっきの話ではないですが、何か意見を言うときも、学校側に意見を言いやすくなるし、ある日突然問題が出てくるといことも、学校側は避けられるのではないかとも思いますね。

なので、学校側は、おやじの会とかPTAは、どんどんやってくださいということではないかと僕は思っています。

学校でと言うと、最近あまり聞かない気がしますが、おやじの会としても活動しやすくするために「校長、副校長先生とできるだけ仲よくしてください」みたいなことは推奨していますね。

そして学校側は、校長先生、ここにいらっしゃいますが、校長権限が非常に強いので、校長がオーケーと言えば、何でもオーケーではないかもしれませんが、ほぼオーケーになるよと、おやじの会の連中には言っていて、校長がオーケーと言ってもらえるように、自分たちがやりたいことをやるためにですが、ふだんからコミュニケーションを取っておきましょうみたいな、そういう感じですかね。

これは僕も思ったのですが、これはどうして学校との連携なんですか。組織の中でより連携・協働するためという話ではないのですか。

○事務局 おやじの会同士でではなくて、当初からは学校と地域がどう連携していくかを、第29期がそうだったものですから、今回はそれをより実践的にできたらいいと考えています。

○委員 私、さっき意見を言いたかったのですが、まとめて言うと、さっきの子ども食堂の話も聞いていてもそうですが、さっき議題として、プロジェクトの話は何でここに入れるんだという話もあったと思うのですが、おやじの会を活性化させるのに一番よいのは、お父さんたちをわくわくさせることなんですよ。「そんな活動ができるのか」だったり、「そんな活動をやっているところがあるのか」だったり、それでおやじの会同士の情報連携をやって、「あそこのおやじの会はこんなことをやっているよ」とか「あそこのおやじの会は、何かこんなことをやって、こういう問題があるらしいけど、できたみたいよ」みたいな、そうすると「じゃ、うちもやってみよう」みたいな話になるんです。

今の子ども食堂の話もそうですが、よく思うのは、社協とか、まちづくりセンターとか、

児童館とか、行政がやろうとしていることは、子ども回りでも社会のまちの話として、いろいろあるのではないですか。それがどうなっているかをおやじは知らないですよ。

僕もほぼほぼ知らないです。まあ、あることは知っていますが、「どう連携しているのか」とか、「行政はどのようにやろうとしているのか」とか、「本当に連携できているのかな」と思うぐらい、あることは知っているけれども、よく分からないなということがある。

そして、さっきの民間のプロジェクトの話でも、別にそれは民間業者であったって、NPO法人であったって、「えっ、そんなことをやっているの?」、「ちょっと面白いから子どもたちにやらせてみようよ」と言うおやじの会は多分いると思うんですよ。それは学校と連携してやられているということですが、学校と連携して、「面白いから、子どもたちにそういうことをやらせてみようよ」、「ああいう組織があつて、それを手助けしてくれるらしいから」と聞いたら、「いや、うちのおやじの会もやりたいんだけど」みたいな話は出てくると思うんです。

そういう「こんなことができるよ」、「あんなことができるよ」という情報が、「何かまばらに聞くのだけれども、全体像が見えないぞ」というようなことはとても思いますね。

そして、おやじの会自体もそうですが、各団体の話を聞いていてもそうだと思うのですが、結局やりたいと言う人次第ですね。やりたいという人が主体的にやっているから、いろいろなこともできるし、いろいろなところがぽつぽつと出てくると思うのですが、それをまとめている人はいないですよというか、まあ、まとめなくてもよいのかもしれないのですが、それが行政の役目ではないかと思ったりもするんです。

例えば、今回の話を聞いていても、こういう地域ではこういうことをやっている団体がいて、今お話しいただいたように、こういう成り立ちで、こういう形でやっていますということを、「ああ、それはとてもいい取組だな」と思うのですが、「では、それをほかの地域でもやってみませんか」とか、まあ、「やってみませんか」と誰が言うのだろうという気がしますが、「やってみませんか」と言う、その意欲的な人に声をかけたら、あっという間にノウハウを吸収して、「こっちでもできました」、「あっちでもできました」と、何かできるのではないかなと思ったりと。

まあ、おやじの会の情報連携は、それを目指しているのですが、「ここの会がこんなことをやっているのだったら、では、うちもできるのではないの」、「では、やりたい人?」「はい」と言って、それで「その同じようなイベントができました」とまた報告があると。

逆に「そのイベントをやりたいんだけど、どうすればいいのか教えてください」み

たいな、やはり知識だけではなくて、実際にやってみないと、いろいろ問題は起こるので、実際にやってみた人の話を聞くことが一番早いですから、聞いてきたりします。

僕は今回のこの会を見ていても思うのですが、何か全体像が見えないなみたいなことは、とてもよく思うので、何か整理をしたら一気に、おやじの会をやっていて思いますが、ふだんはそういうことをしていなくても、やり出したら、「そこまでやらなくてもいいのに」というおやじが結構いっぱいいたりするのですよね、意欲的な人ですか。

だから、そういうチャンスがあれば、どんどんそういう活性化はできるような気がするなどは思います。

そんな感じですかね。

○事務局 最終的には、世田谷区内でたくさん活動をされている方たち、あるいはこれからしてみたいという人たちも、いろいろだと思うのですね。そしていろいろな課題とか悩み、決してよいことばかりではないとするならば、この会議の中で、今回は4つの活動を検証していただいています。そういうところで、こんな可能性があったよとか、こんなふうにとったらうまくいくのではないかというようなことを導き出していただけるといいのかなと考えています。

○議長 ほかにいかがでしょうか。

僕も29期のことはよく知らないのですが、社会教育委員の会議とか、それから担当の方のお話を聞いていて、行政は連携・協働と言って、連携・協働をどうにかしてつくろうとしているみたいですが、どうも行政の手法では連携・協働を、ある程度まではできたかもしれないけれども、もう行き詰まっているのではないかということがベースにあるような気がして……。行政のスタイルでの連携・協働をつくるというアプローチ自体が。なので、今回こういうことをされようとしているのかなと思っているんですね。

29期も、おやまちプロジェクトを中心に、学校と地域社会の連携・協働をやったとなっ
ていますが、おやまちプロジェクトの人たちに聞くと、連携・協働をしようと思って、そのことを目指してやったと言うよりは、商店街に買物をしに行く人たち、昔は商店に買物をしに行ったわけですね。だけど、そこに買物以外の人たちが集まって、偶然そこで知り合って、面白いことを始めて、「だったら、あの人が面白いよ」とかいうように、そういう人の動きが起きて、それでよい活動になったということが、簡単に言ってしまうと、おやまちプロジェクトだと思うのですね。

おやまちプロジェクトは、地域と学校を連携させるための仕掛けとしてつくったという

わけではなくて、おやまちプロジェクトをやっていることで連携していったんですよ。

商店街に何かそういう仕掛けをつくったって、買物のための仕掛けではなくて、人が集まるようなことをしていったら、そこにいろいろな人を連れてきて、いろいろな人が出会って、予想外のいろいろな展開が起きていったという、今、言われたような話なんですね。

そういうことが、いろいろなところで起きているかもしれないし、どういうことが起きているかということを経つか、まあ、4つですが、取り上げて、ちょっとみんなで考えてみようということなのかと思って関わり出しました。

ですから、連携・協働の仕組みをつくって、「このようにすれば連携・協働できるから、皆さんやってみましょう」ではなくて、そういう全体像があるようで、ないようで、それを整理して、行政がきちんと「こうしてください」と言っているわけでもないのではないかと、もうそういうことはできなくなっているのではないかと。

だから、そもそもそういう発想でしようとする、新しいもので連携・協働ができないから、多分、お話を聞いて僕が思うのは、会社ではない空気感、会社ではない何か楽しいことをやっていく。やっていくときには、ある種てきぱきとやらなければいけないことがあったりしますよね。だけど、それを会社のようなてきぱきさではない熱中と、てきぱきさでやっていくと。

そういう今までとは違う空気感とか、やりがいか、原理みたいなものがあるから、多分おやじの会は、やっている人は楽しいのではないかと。そして、そういうことを何かもうちょっと見つけてみようというような話かなと思って聞いていたんです。

ですから、子ども食堂も、学校的に組織化して、何か目的があって、そのためにこうして、材料を調達してみたいな、そういうものではない。もちろん食べ物を作るからには「おいしくて安いものをどこかから調達していこう」みたいなことは多分やっていたらと思うのです。

ですが、そういう筋道を立てたような見方ではなくて、やりながら、「子どもたちがおいしそうに顔をしていればうれしいよね」みたいなところから集まってされているというところが、行政ではない原理、行政ではやっていない空気感、人の集まり、そこにある工夫、楽しさみたいなものがきっとあるのではないかと。それを探っていくと、何か別のものが見えてくるのではないかという話なのでしょう。

○事務局　そういうことになります。なので、行政的なやり方を押しつけているわけでもありませんし、ですから10人の方に集まっていただいて、それぞれの活動の経験もありま

すので、そういうことを踏まえながら、どのようにしていったらよいのかをぜひ考えていただきたいということなのですね。

○委員　そういうことと言えば、子ども食堂は、活動している中で、何かちょっと気になることがあったときに、その子に対してどういう、何をどうしたらよいのかをみんなで考えて、どこにつながったらよいのかというか、どうしたらよいのかを、私たちも勉強に行く先を探したり、子どもにはこういうことがよいのではないかというようなことを試行錯誤する。

そして、そこでまた知り合った人と、その先が、先がと言ってつながっていくというような意味で言えば、子どもありきの連携、広がり、いる子、その子、その子一人一人にというようなことをして、それで結果としていろいろな大人がつながると。

もしくは、こういう活動をしていますよということで支援の人が来てという、こっちから求めていく連携と、向こうから「どうですか？」と来る、連携とは言わないですね、そういう関係性ですか、つながりは、子どもがつくってくれているということだと思います。

それ以外に、利害は何もなくて、なので、思い違いもあったりするので、そこはまた、「あっ、ちょっと今、専門の先生が必要かもしれないね、じゃ、ちょっと聞きに、勉強が必要だね」というような、そんなことですかね。

なので、互いに、相互に成長できる活動がこういった活動かなとは思って、与えるだけではない、もらうだけではないということかと思っています。

○委員　確かに全体像は見えないですね。行政側の意図と地域の意図は、なかなかかみ合わない部分があることは確かですね。

そして、今言われたように、やはり4つ全部、共通項は子どもなんですよね。子ども食堂以外は、3つは学校の施設を使っているということが共通項ですよ。

もう一つは、ちょっと言い過ぎかもしれないけれども、やはり地域の大人は子どもをだしにして楽しんでいるというような見方もしようと思えばできる。それが地域の活力というか力ということではないかな、ちょっと語弊があるかもしれないけれども。

○委員　でも、子どもが楽しそうにしていると、大人が集まってくるのは、もう絶対だと思います。

○委員　学校も行政だとすれば、学校は地域に結構ラブコールをしているわけですね。学び舎にしろ、コミュニティースクールにしろ、学校運営委員会にしろ、学校協議会にしろ、地域の人たちは来てくれ、来てくれと一生懸命ラブコールを送っているんですよ。

○委員 子どもが中心ということについて、私も考えてきたところはそこですが、大人が考える子どものための何とかというものだけではもう駄目です。いろいろな楽しいことを、うちの地域でも、企画をいろいろ考えてくれていますが、例えば今日もこの冊子があるけれども、ここに子どもを企画の段階から関わらせてほしいと私は頼んでいるんです。子どもがやりたいことを考えるようなものに、大人が力を貸すという形のものはいけませんかと言っているのですが、まだ実現はしないけれども、子どもに任せてみたらどうか、やらせてみたら、もっと人が集まってくる、子どもはもっと参加すると。

子ども食堂は、ちょっとまた違うかもしれないけれども、おやじの会の活動についても、おやじの人たちが、自分たちが楽しんでいるという一番よい形でやってくれているけれども、「子どもと一緒に共催という形でやってみませんか」と投げかけて、「ああ、いいですね」ということで、もう子どものアイデアと大人のアイデアを一緒に入れて、もしあれだったら企画会議のようなものを学校でやってくださいねと。

それから最近だと、オンライン上でも子どもたちもできるので、そういうものもいいのではないですかという感じで、子ども中心にと言った場合に、大人が子どものためにしてあげるだけでは、ちょっともう面白いことが考えられない、子どものほうが考えられるかなと、今日は、そんなことを考えてきたのですが、もう皆さんが言ってくださったので、「そう、そう」と。

だから、子どもは学校にいますので、もちろん子どもの最大の応援団であり、何か必要なことをする大人ではありますが、そういう周りの学校以外の大人の人たちも、子どもの何かをしてくださるといふことであれば、地域がつながっていくかなという気がします。

○議長 いかがですか、おやじの会が例えば運動会のようにテントを張るみたいな、ちょっと言葉は失礼かもしれませんが、従来型のもの、とても助かるし、おやじの力が活躍できるのですが、そういうものはすぐにイメージできますよね。

でも、お話を聞いているときに僕が思ったことは、そういうパトロールとかテント張りとか以外に、おやじたち、お父さんたちが楽しんでいるという、場合によっては子どもがいなくても楽しんでいるという姿があることがすごく新鮮だったのですね。

加えて、今度の新しい展開の中に、学校のためにということは今までもあったのですが、それとは別に、おやじたちが楽しんでしまうということもあるでしょうし、さらに、そこに子どもが何か企画から……。

○委員 一緒につくり出すというか、そういうものはどうかと。

○議長 これは皆さん一生懸命つくってくださっていますが、行政がつくって、「これだけあるから、皆さん、どうですか」というタイプとは違うものを、何かちょっと……。

○委員 どうですかと。

○議長 どうですかという話だと思うのですが、いかがでしょうか。

○委員 いや、盛り上がると思いますね。ぜひおやじの会に提案します。おやじたちはみんな喜んでやると思いますよ。それは当然、どこまでできるかとか、リスクがあるとか、経費の問題とかはあるので、多分丸々はできないと思いますが、できる限りのことは多分、一生懸命やっているおやじの会のメンバーはやると思いますね。

○議長 5月に、それも、行政から言われたからやるということではなくて、何かチャンスがあるので、楽しいことを子どもと一緒に、やらなければいけないということではなくて、今までとは違うもので、何かあるのなら、そういうときの、行政的な仕組みの中とか空気感とかではないところで、おやじの会の皆さんがやっているところなどは、ちょっと見せていただきたいなと思うんですけれどもね。

多分、企画会議のようなものがあるにしても、行政での企画会議とか、先生方だけのともまた違って、お父さん、お母さんたちだけだったり、そこに子どもが入ったりとかね。

P T Aだと、またP T A的な会議のスタイルはあると思うのですが、もしかしたらそれとも違うかもしれないということで、そういうものを見たいということですよ。

○副議長 ある意味、社会教育は、やはり自由意志と自然発生というところが面白いわけですね。だから、子どもたちが学校を離れた中での発想とか、子どもたち同士のつながりとか、そういうものがおやじの会とかでできてくると面白いかもしれないですよ。すごく面白い。

○委員 でも、一方で、お父さんたちが連携してやるのは、地域の力にもなるし、それ自体が防災訓練だと言って、おやじの会をもっと盛り上げましょうと言っているのですが、お話にあったように、では、子どもがいない人はそこに入れないではないかということはどう思いますね。僕らのターゲットに入って来ないですからね。でも、その地域にはいるわけで、そういう子どもがいない人のほうがますます増えているではないですか。そういう人たちを置き去りにしていいのですかと。

学校に関係している人たちはコミュニティーがあるかもしれないけれども、そうではない人はそれに入れないのだけれども、どうするのでしょうかということは、すごく、僕にも結論はないですが、だから、町内会とか商店街とか、そういうそもそもある地域の団体

との連携も必要なのだろうなということはずごく思います。

○議長 ただ、おやじの会が全部をターゲットに活躍するということまでは考えていなくて、おやじの会だったら、おやじの会らしい活動をしていく中に、もしかしたらお子さんのいない人も関われるようなスタイルが見つかるとか、そういう空気感が見つかるのかもしれないというようなことをモデルとして抽出しとか、そういう話なのではないかなと理解しているんですけどもね。

行政がやると、やはり予算を取ってから始まりますし、学校も意図的、計画的に配置していくというところから始まっていくわけで、そのときの……。

○事務局 乗りとか勢いのような……。

○議長 勢いではないんですね。行きあたりばったりと言うと、言葉は悪いですが、行きあたりばったりがよかったりするときもあるわけで、行政とか学校はそのようになっていないので、それをすると学校は「まずい」ということになっていますが、でも、やはり面白くなってきたら、「もうこれはやめてしまって、こっちだけで行こうよ」ということができたりするわけですよ。

今までの委員のお話を聞いたときに、「いや、いや、もうこっちで行こうよ」となったときの爆発的な何かが出てくるみたいな、そういうものを、違う集まりだからこそできるわけで、そういうものを見たいということですよ。

ある意味、組織立っていないと言うと、言葉はちょっとおかしいかもしれませんが、何か会社組織みたいになっていないけれども、「あれはこの人が上手だよ」とか、「やる気になったら夜でも、朝までやってしまうよ」みたいな、でも「俺はちょっとやりたくないよ」と言ったら「今回はパス」みたいなことが許される組織ですよ。

会社などだと「今回はパス」というわけにはいかなかったりするわけですから、そういうことのよさのようなことが発揮できるようなことが、一体それはなぜなのか、どこがうまくいき、もしかしたらどこかにどういう問題があるのかというようなことを、来年の5月ぐらいに何かできればいいねということですよ。

○委員 その辺が何かいまいちよく見えないんですよ。5月のその次に何をすればいいのかということが、いまいち具体的に……。

○議長 それはそうでしょう。これもほんの直前に聞いたのですが、そんなに都合よく5月にやれと言われたって皆さん、やりたいことがあればもうやっているわけで、それを5月に合わせて学校で何かやってくれよと言われたって、きっと困るよという話はしてあり

ます。

○事務局 繰り返しになってしまいますが、今回は実践的なモデルの試行、どんなことができるか、しかもその相手は学校ということになりますので、なかなか学校の予定もあつたり、あるいはそれぞれ独自、団体のいろいろな活動もあつたりするので、合致するかどうかもあると思うのですが、いろいろ逆算すると、それこそ行政的な考えですが、5月、6月ぐらいがよいのではないかということですね。

○議長 学校も困りますよね、大丈夫ですか。

○事務局 とは言っても、1期2年という枠組みの中ですので、行政的な話になってしまうのですが、どうしても限られた回数、予算の中で、ある程度の方向性を見いだすということが、この社会教育委員の会議に、ある意味求められていると言うのもあれですが、そういう中で検討いただいているということですので、本当は長いスパンで、予算もかけながらということが一番よいと思うのですが、なかなかそれができないものですから。

○議長 予算と言っても、予算が特別つくわけではないでしょう。

○事務局 そうですね。いや、だから、そういう何か、「本当にこれはいいよ」ということであれば予算をかけなければいけない。

○委員 学校が連携と言った場合に、さっきの和綿はそうですが、授業なんですよね。だけど、こちらが考えていることは授業ではなくて、地域の中との連携の何か……。

○事務局 いや、それは企業になるか、地域住民の方の関わりなのかということは、授業であってもいいのかなとは思いますが……。

○委員 つまり、休みの日の活動なのか、学校がある日の活動なのかによっても考え方が違ってくるのかな。

○議長 違うんですよね、ある日というか放課後ですよ。授業の中だと、そんな昨日、今日にさっと来てというわけにはいかないですよ。

○委員 放課後とか休みの日ですよ。まあ、できなくはないと思います。あと、できないとしたら、熱中症だの何だの、そういう外の要因によると思うけれども、5月、6月だったらできなくはないと思います。何がしたいと思うかということですよ。

○事務局 そうですね。ですから、今は地域活動、団体の皆さんからの発想ということですが、場合によっては学校がこういうことを求めているというようなことも何かおありでしたら、次回以降、何か御発言いただいてもいいのかなとは思うんです。また、小学校と中学校と関わりが違うというところも重々承知はしているのですが、今日、こういう形

で、ある意味、初めてやっていただいたということなので、次回以降は、また総合型地域スポーツクラブと子どもぶんか村で、どんな可能性があるか、どんなことが障壁になっているのかをやっていければいいのかなと思っていますので、ぜひ担当の方以外に、活動を全て把握しているわけではないので、なかなか難しいところもあるのですが、「こんな可能性もあるのではないか」、「実際のところ、ここはどうなの」というところで検討できたらいいなとは思っております。

○議長 何か一頃と比べたら、学校ごと、地域をかなり意識して、いろいろなところで連携できるところはしていますよね。

○委員 コロナの話ですか。

○議長 コロナはちょっと別で、コロナは今、ちょっと状況は違いますが……。

○委員 多分うちで言うと、この二、三年間の中で、部活動の地域への移行が始まりますから、この部分の枠組みが、またどう動いてくるのかなということがちょっと見えませんよね。土日は地域へ移行していく、そして平日は、今のところは学校なのかな。

それがどうなっていくのかは、特に部活動の大会の持ち方がどうなっていくかが一つ大きいと思うんですよね。そのときに本当に地域は受けられるのかどうか、その辺がそろそろ、区も会議を持ち始めるところなので、まだ我々もどうのこうのということが分かって、見えていないですが、多分大きく出てくるとは思いますね。

○事務局 なかなかイメージしにくいところもあるかと思うのですが、29期から引き続いてということで、今回は地域と学校の実践的な連携・協働の可能性がどのくらいあるのかということで、実際に試行していただきながら何らかの結論を見いだしていただければいいのかなと。先ほども議長がお話ししたように、「いや、そういうことも含めてやはり行政的だとできないよ」という結論もおありかと思うのですが、学校現場の方もいらっしゃいますし、地域で活動している方たちもいらっしゃいますので、そういった中で、今後どのようにしていったらよいかをぜひ検討していただければと思っております。

○議長 僕は行政ができないよとは言っていないのですが、行政は行政でやってもらわなければいけないのですが、行政的な物の見方とかやり方だけでは難しい時代になってきてしまったのではないかとすると、そうではない方法論とかやり方を探していかないといけないだろうということの一つのヒントとなるようなものをここに求めているのかなと思っているということなんです。

行政というのは世田谷区だけではなくて文科省も含めて、文科省などの枠組みだけでは、

多分うまくいかないのではないかなと思っているということですね。

時間はこんな感じですね。

○事務局 そろそろですね。少し早いのですが、全体像はなかなか見にくいかもしれませんが、何とか御理解いただきながら、できればあのスケジュールの中で活動できればいいと思っておりますので、御協力をお願いいたします。少し早いのですが、次回また年明け、1月16日月曜日18時半から、この会場で予定してございます。

それから、その先、予定では、5回、6回を見て、また改めて確認させていただきますが、違った活動をされている事例報告のようなものがよいか、あるいは、いや、いや、ここまで来たら、もっとこの4つの活動を深めていったほうがよいのか、あるいは、いや、いや、企業側ではなくても、企業でもNPOでも、地域住民の方でもよいのですが、こんな活動をしている団体もあるから、こんなのも面白いのではないのということがあれば、ぜひ情報提供していただければと思っています。

今年度は、以上3月までの活動と考えておりますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

○議長 ということで、無理無理するのではないですが、今の話を踏まえて、何かおやじの会らしいアイデアがありましたら、ぜひお願いしたいと思います。チャンスがあれば、活動のところへ見学させていただきたいなと思っております。

○委員 確認ですが、おやじの会が学校との連携をするということを推進したいというか、それを見たいということなんですか。

○議長 どうですか。

○事務局 何らかの形で試行できればいいなど。

○委員 それは今までやっていることではなくて、新たにということですね。

○事務局 今もやっている形でもいいとは思いますが、それが、この間検証してきた中で、実際、その話だけではなくて、具体的に皆さんが現場で見た感じ、そういうものも、先ほど来から議長がお話しされていますが、そういうことを肌でつかむ、あるいは感じていただくということも必要かなと思っていますので……。

○委員 それで、具体的には、そのイベントか何かに向けてやったものをビデオか何かに撮って皆さんに紹介するとか、そのイベントのタイミングに……。

○事務局 そうですね、委員全員が必ずしもその日程に行ける、活動に行けるとは限らないので、行ける方は行っていただき、そして行けない方のために、事務局でビデオ撮影を

したり、いろいろな記録を取ったりということは考えています。

○議長 そこは少し僕とも違うのですが、僕はおやじの会のおやじの会らしいところを何か見たいなという気持ちは持っております。それがちょっと言葉として適切かどうか分からないのですが、通常の会議とは違うような雰囲気の中で物事が決まっていくような会議が、おやじの会らしいのだとするなら、そういうものを見たいなと思っているというのが私の期待なんです。ただ、それとは別に……。

○事務局 言葉足らずですが、何かをやっているところはもちろん撮りますが、事前にそういう打合せの会だったり、そういうところなども含めて、ビデオなどを回していければ。逆にそれをやってしまうと緊張してしまったりとか、自由さがなくなってしまうということもあるかもしれませんが、そっと後ろのほうから、そんな雰囲気がもし撮れば良いなとは思っております。

○委員 それは大変ではないですか。イベントの動画を撮るのは簡単ですが、そのタイミングに合わせて動画を撮りに行きますと言えばできるけれども、その前過程が知りたいということですよ、どうやって話し合っているかとか。それはドキュメンタリードラマみたい撮らないと分からないですよ。

○事務局 だから、全部が全部、例えば実際の開催の前に3回打合せがあるのか、5回打合せがあるのかということは分かりませんが、全部には参加できないかもしれませんが、できるだけそういったところも含めて撮れば良いなとは思っています。

○議長 それは事務局のお話なので、僕が言ったのは、おやじの会のおやじの会らしいところがどこかで触れられたらいいなということは、僕の希望ではあります。ただ、その話と今の感じと言ったらよいのか、事務局の話とどこまで重なるかは、ちょっと自信がないですね。

ただ、イベントとして完成されたところを見ても、多分おやじの会らしい、よいところは出ない、あまり分かりにくいのではないかなという気はちょっとしているんですね。

○委員 そうでしょうね、そういう動画だったら幾らでもありますけれどもね。

○議長 と思うんですよ。

○事務局 だから、先ほど来言っているように、そこだけを撮ってピックアップしようとは思ってはいないです。これはおやじの会だけではないですよ、子ども食堂もしかり、子どもたちが食べている様子というのは、そこだけ映したところで、あまり意味はないので、当然顔は映らないような形にしますが、そうではなくて、そこへ行くまでにどんな関

係性でやっているのかとか、そんなところが記録に収められればいいなどは思っています。

○委員 子どもぶんか村の発表会は3月にありますが、その実行委員会は非常に楽しいです。子どもたちと一緒に企画会をするので……。

○事務局 ぜひそういう情報提供もありがたいですね。

○委員 50人ぐらいでやるのですが、もう小学生の低学年から中学生までみんなで決めていきます。撮りやすい感じだと思いますね、二、三回だし。

○事務局 だから、今のような情報提供をしていただいたり、今後皆さんの中で、やはり、議長が言われたように、こういうところを撮ったほうがいいよね、こういうところは欠かせないよねというところもぜひ意見交換していただければありがたいなと思っています。

○議長 僕がリクエストしたのは、例えば、きちんと理解していませんが、ぶんか村のある合唱とか演劇とかの発表会を見たら、それはすばらしいでしょうけれども、すばらしいとしても、多くの場合、それは発表会の映像になってしまうわけですね。

○委員 その発表会の実行委員会というのを子どもたちがやるので……。

○議長 そう、そう、そちらのほうを、そういうものがあれば、ぜひそこにこのぶんか村のいろいろな秘密があるのではないかと思うので、そこをよく撮ってくださいねというお話をしているということなんです。

発表会もすばらしいでしょうけれども、そのすばらしいのだけだと、それはいろいろあるかもしれないではないですか、そのプロセスに。そのプロセスのほうは……。

○事務局 一応私もそれは思っているんです。ですから、どんな過程でそこに至っているのか、その至っているところだけ撮ってもあまり意味ないかなとは思っております。

○委員 発表会がすばらしいのは、子どもたちがやるからということですよ。大人がやらせているのではなくて、子どもたちがつくっていているから、すごいなど。

○議長 うん、そうだと思うのですが、発表会で子どもが何かしているだけだったら、学校の発表会も、そこだけ見たら多分感動するすばらしいものはほかにもあるのですが、それが学校でやるのと違うとするなら、その違いはどこにあるかという……。

○委員 いや、学校よりも全然完璧ではないので、拙いものではあるけれども、自分たちがやっているという気が、それが地域でやっているよさがあるのだろうと思います。

○議長 ええ、そこなんです。学校のも、いいのもあるし、いろいろあると思うのですが、やはりそれは学校だから、先生が子どもたちと一緒にやっているの、そうではない活動だという、そこが違うのだろうと思うんです。

○委員 そうですね、そこが全然違うと思います。

○議長 そこを見ないと、そのモデルとかということが分からないだろうということを主張したんです。

おやじの会も、やはり会社とかでやっているのとは違うよさがあるというお話でしたから、そのよさが分かるようなところをぜひ、撮るのであれば撮ってねという話を僕からしたということなんです。

ただ、それが難しいというのは、そのとおりです。

○委員 タイミングもありますしね。

○副議長 どっちかというと、その企画会議のほうが面白そうですね、子どもと一緒に、どのようにプロセスを経て、子どもたちがなさって……。

○委員 それを、来週の水曜日に1回目をやります。

○委員 それで、皆さんのそういうものを見させていただいて、その次の段階には学校との連携・協働というテーマに持っていくという全体像ですね。

○副議長 でも、今日の話だと、そこまで連携・協働したら……。

○委員 いや、いや、それを見た後の次のステップは、最終的にはということです。

○副議長 多分、活動の質とか目的によって、全然その連携・協働の度合いが違いますよね。多分次回やる、お2人のほうは、割と学校と連携・協働の度合いは、もちろん、ちょっと強いですよね。今後の部活という代替の面でも。ただ今回は、ちょっとお2人の場合は難しいですよ。

○議長 だから、あまり協働しないほうがいいのかもかもしれないというのは、そういうことです。

○事務局 企画、プロセス、本番とあると思うのです。大きく3つに分けるとしたら、企画の段階が、どうやって学校とも関係を持つかということもありますので、本番だけが連携・協働ではないと思っていますので、その前の段階からも連携・協働かなとは思っています。ただ、関わりの度合いは、やはり大小はあると思っています。

○議長 ということだそうですね。僕は、先生がいないと、おやじがわいわい言いながら何かしているところをちらっと見たいなと思って、チャンスがあれば、ちらっとそこを見せていただきたいし、行けない場合には、「私、撮ります」と言ってくれているので、「じゃ、撮ってくださいね」とお願いしたということです。

○事務局 ただ、ポイントも、ぜひ皆さんの中から発言していただいとしたいと思います。

ぞよろしく申し上げます。

○議長 ということ、あと、資料等は、それもなるべく残るようにしていただければいいなと思っています。

これで、スケジュール等も話が出ましたので、いいですね。

それでは、これで閉じたいと思います。どうもありがとうございました。